

# ポスター発表 午前

2月7日(木) 11:10~12:10 体育館

## <提案のポイント>

集団が変わっても、自信をもって様々な活動に積極的に取り組もうとする児童を育てるために、道徳科において、内容項目「個性の伸長」と「よりよい学校生活、集団生活の充実」の関連を図り、段階的な学習を構想し行った。これにより、集団のよさを実感し、自分の長所の理解を基に、集団の中でできる役割を考え、進んで果たそうとする実践意欲の向上が見られた。

①

**小学校 道徳科**  
[総合教育センター研修]  
集団のよさを実感し、進んで役割を果たそうとする児童を育成する道徳科の指導  
～小学校第6学年における内容項目の関連を図った段階的な学習を通して～

横手市立睦合小学校 教諭 草薙 志津子

②

**中学校 道徳科**  
[総合教育センター研修]  
個性の伸長を図る、家庭との連携を通した中学校第3学年道徳科の指導

能代市立二ツ井中学校 教諭 年代 信弥

中学生段階では、他者との比較によって自分を捉えがちであるため、他者と異なることへの不安から個性の伸長に消極的になりがちである。そこで、道徳科において家庭と連携し保護者の思いを生徒に届けることで、生徒のより一層の自己受容、自己理解を図ることが期待できると考えた。結果、生徒と保護者が教材を共有し、自分の個性に対する保護者の考えや思いを生徒が知ることにより、個性の伸長を図ろうとする意欲の向上が見られた。

③

**小学校 図画工作**  
[総合教育センター研修]  
小学校中学年図画工作科における造形的な資質・能力を高める授業づくり  
～形や色などを基にした友達同士の関わりを通して～

大仙市立東大曲小学校 教諭 佐藤 康規

一人で黙々と造形活動に浸っているとき、児童は新たなものをつくりだす力を自然に発揮している。児童が多様な表現や活動にふれ、造形的な資質・能力を更に高めるために、図画工作科の授業の中で、形や色などを基にした友達同士の関わりを促す多様な手立てを取り入れた。その結果、児童は自分の活動や作品のよさに気付くとともに、友達の活動や作品により興味をもち、自分の活動に生かそうとするようになった。

④

**小学校 外国語活動**  
[総合教育センター研修・小学校外国語教育実践研究]  
自分の考えや気持ちなどを主体的に伝え合おうとする態度を養う外国語活動  
～友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を通して～

潟上市立追分小学校 教諭 佐々木 絵理子

2020年度、外国語活動が小学校中学年において全面実施となる。コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成を目指して、授業実践では具体的な課題を設定し、友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を展開した。児童の外国語活動に対する不安や負担感を軽減し、コミュニケーションの楽しさを実感できる言語活動を展開した結果、主体的に自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとする態度を養うことにつながった。

⑤

**小学校 特別支援教育**  
[総合教育センター研修]  
特別な支援を必要とする児童における対人関係の困難さを軽減するための支援の工夫

湯沢市立雄勝小学校 教諭 古山 広和

特別な支援を必要とする児童の中には、対人関係に困難さを抱えている児童がいる。そこで、チーム6年部を組織し、対人関係の困難さに寄り添う個別の支援と、互いに認め合い肯定的に受け入れる学級づくりを行い、集団の中で安心感を保障するための支援を工夫した。その結果、対人関係の困難さの軽減につながり、自己有用感を醸成する手立てとして有効であることが確認できた。

## ポスター発表 午前

2月7日(木) 11:10~12:10 体育館

### <提案のポイント>

⑥

#### 特別支援学校 特別支援教育

##### [総合教育センター研修]

特別支援学校中学部生徒と中学生の関わりが生まれる交流活動の工夫  
～居住地校交流を通じた双方の意識の変容を目指して～

県立支援学校天王みどり学園 教諭 加藤 由子

特別支援学校中学部居住地校交流における先行事例は少なく、活動内容設定の難しさや中学生の意識に対する不安がその要因として考えられる。本研究で中学校との打合せ、障害理解授業の実践、中学生を対象としたアンケートの実施と分析を行った結果、活動中に直接的に関わることが中学生の意識の変容につながることを確認できた。中学部居住地校交流への取組の参考となるよう、具体的な活動内容の事例と授業の中で関わり場面を設定するための工夫についてまとめた。

⑦

#### 中学校 特別活動

##### [長期社会体験研修(株式会社わらび座)]

民間企業と教育現場との相違点、顧客と生徒への関わり方の共通点とは  
～劇場を中心とした企業経営、和光中学校教育旅行を通して～

大仙市立太田中学校 教諭 大野 芳史

株式会社わらび座は、劇場を中心とし、ホテル経営、ビール製造など多角的に事業を展開している民間企業である。次の3点について述べたいと考えている。

- ①民間企業と教育現場における業績評価の相違点
- ②様々な業務の体験を通して感じた教育現場との共通点
- ③和光中学校教育旅行における生徒との関わりから学んだこと

教職員の資質向上という視点からも民間企業研修の意義を考察し、わらび座での一年間の研修をまとめた。

⑧

#### 高等学校 生涯学習・社会教育

##### [長期社会体験研修(生涯学習センター)]

連携・協働による地域活性化事例に関する調査研究

～多様な連携・協働から見る社会教育行政の役割と可能性に関する考察～

県立秋田工業高等学校 実習教諭 松田 清孝

平成27年の中教審答申では、学校・家庭・地域の関係性を、地域が学校を支援するという一方的な支援から「連携・協働」というつながりに発展させる必要性を強調した。持続可能な地域づくりを実現するためには、学校と地域が目標を共有し、協働して課題解決に臨む必要があり、そのための体制の整備が学校教育のみならず、社会教育の分野でも不可欠である。いま、連携・協働に向けた社会教育行政の役割・取組はますます重要性を増している。

⑨

#### 小学校 体験活動

##### [長期社会体験研修(県立農業科学館)]

伝統野菜の栽培・活用を通じた農業科学館と学校との連携

横手市立醍醐小学校 教諭 佐々木 義仁

今年度、農業科学館では大曲農業高校家庭部の生徒と、地元の伝統野菜である石橋ゴボウや仙北丸ナスの栽培を行った。さらに、伝統野菜のよさを生かした料理レシピを考える学習や、地域の園児を招いた収穫体験会など、活動に広がりをもたせるための工夫が見られた。県内の伝統野菜の特色や現状について取材した内容も踏まえ、ふるさと教育充実の観点から、伝統野菜教材化における課題を分析して、農業科学館と学校・地域との連携の可能性について考察した。

⑩

#### 小・中学校 教科等指導

##### [長期社会体験研修(あきた白神体験センター)]

児童生徒の主体的な体験活動を促す支援の工夫改善

～磯遊び体験活動での働き掛けを通して～

八峰町立八峰中学校 教諭 永塚 功

人間関係のよりよい形成と自己実現を図ろうとする態度を養う主体的な体験活動の実施においては、目的意識を高める事前指導の工夫が求められているが、時間確保が一つの課題となっている。そこで本研究は、あきた白神体験センターにおける「磯遊び体験活動」に着目し、短時間でできる有効な働き掛けについて検証した。調査の結果、「事前指導で活用できる資料の配付」と「体験活動につながる具体物の展示などの環境整備」が、活動意欲を高める手立てとして明らかになった。

# ポスター発表 午前

2月7日(木) 11:10~12:10 体育館

## <提案のポイント>

本校には肢体不自由を有し、発語は難しいが眼球や視線の動き、まばたき等で周りに働き掛けようとする児童生徒がいる。そのような児童生徒の認知に関するエピソードはあるが、それを確かめる客観的手法がなかった。しかし、視線入力装置の導入により、視線の動きを可視化し、ディスプレイ上のターゲットに働き掛けることができる。対象児の認知段階に応じて、視線入力装置における課題を設定し、実践に取り組んだ経緯を報告する。

⑪

**特別支援学校 特別支援教育 学習支援**  
**[齋藤憲三・山崎貞一顕彰会 助成研究]**  
ローコスト視線入力装置を活用した肢体不自由児童のコミュニケーション指導における実践研究

県立秋田きらり支援学校 教諭 高橋 正義

⑫

**小学校 地域に根ざしたキャリア教育**  
**ふるさとキャリア教育と食育がコラボする！**  
～枝豆弁当に子どもたちの思いを詰め込んで～

大館市立成章小学校 栄養教諭 嶋田 みどり  
教諭 虻川 麻里子

本校の成章かがやきプロジェクトでは、全校で枝豆の生産・収穫・加工・販売を行っている。その一つとして、本校の枝豆を使った弁当を学区にある農産物販売店に製作してもらっている。11月の学力向上フォーラムでは、来校者に自分たちの活動を紹介したいという児童の思いから、児童考案メニューを取り入れた枝豆弁当の販売を計画した。児童の思いに食育の視点も加え、おかずのレシピづくりを6年担任と栄養教諭のTTにより行った。地域の方の協力も得ながら「枝豆弁当2018」が完成した。

⑬

**特別支援学校 寄宿舎生活指導**  
**[文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究 充実事業]**  
児童生徒が生活の中で学び、学んだことを生かせる生活指導の在り方  
～学習会と事後指導の工夫改善を通じた生活指導の充実～

県立比内支援学校 寄宿舎指導員 安保 友希

「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ、学習会と生活指導の改善に取り組んだ。学習会の「内容」だけでなく、児童生徒がどう理解しているか、興味をもって参加しているか、そのための支援や手立てはどうあればよいか等を模索し、学習会を見直してきた。また、学習会と生活指導のつながりを明確にし、学習会で学んだことを日々の生活指導で深め、定着を図ることにも取り組んだ。本発表では、その成果と今後の展望を紹介する。

⑭

**高等学校 総合科学・キャリア教育**  
**[国立極地研究所 教員南極派遣プログラム]**  
**教員南極派遣事業と南極授業の実際**  
～地球を知らずして惑星探査はできない～

県立大曲工業高等学校 教諭 須田 宏

発表者は教員南極派遣事業によって第59次日本南極地域観測隊(夏隊)に同行してきた。同事業に秋田県の教諭が参加するのは初である。南極授業は昭和基地から衛星回線を使って西仙北小学校と大曲工業高校の児童生徒に行った。秋田県は白瀬蘆の出生地であり、南極観測にとっても関係深い県である。今後も秋田県の教諭が同事業に積極的に参加し、教育活動に役立ててもらいたく、同事業の実際について発表する。